「社長塾」を開催しました

６月２８日（火）に福島県立医科大学附属病院にて「社長塾」を開催いたしました。
福島県医療福祉機器産業協議会では１２企業が参加し、医療現場のリアルを体感しました。

【プログラム】
①臨床工学センター 手術室・ICU見学
②検査部見学
③医療機器の購入や管理、開発に関するディスカッション

【講師】福島県立医科大学附属病院
臨床工学センター　出羽 仁 技師長
検査部　山寺 幸雄 技師長
医事課 副主査　佐藤 愛 様

①医療の現場では多種多様な医療機器が使用されていますが、中でも手術室は特に機器の種類と台数が多い部門です。手術室内では、診療科に応じた機器や設備の特徴について解説をいただきました。

臨床現場で使用されている機器の課題を伺いました。例）軽くて、静かでコンパクトな製品に改良できないか等。現場のニーズから真の課題を把握することが重要であることを学びました。

②「検査部」では、実際にエコー検査を用いて、どんな課題があるのか、コロナ禍ならではのニーズなどお話いただきました。

福島県内初の「自動化ラボ」の導入により、迅速な臨床検査サービスを提供されています。

③施設見学後、先生方を交えてディスカッションを行い、参加者からは医療機器の購買や管理、開発に関する質問が多く寄せられました。「誰に医療機器の購入決定権があるのか」「購入ルートについて」など対面だからこそ踏み込んだ内容に触れることができました。また、実際に製品開発に関わったエピソードや医療分野に参入する心構えなどを教えていただきました。

臨床現場の困りごとやそれに対して実践している解決方法は、医療機器開発への第一歩となるかもしれない貴重な情報です。
福島県医療福祉機器産業協議会では、引き続き医療従事者との交流プログラムを企画してまいります。

【参加者の感想】
- **今後の医療機器開発に向かう意気込みがより強くなった。**
- **自分たちにもできるかもしれないという期待が生まれた。**